

鷹巢中1年
荒田さんが受賞報告



「税についての作文」

コンクールで大臣賞に次ぐ全国納税貯蓄組合連合会会長賞に輝いた鷹巢中1年荒田星美さんが12月4日、川添町長に受賞報告しました。

荒田さんは、支えてくれる周囲の人たちへの感謝の言葉とともに「受賞できたことはびっくり。困っている人の役に立ちたいし、皆が助け合って生きる社会になってほしい」と話しました。

荒田さんの受賞作品を紹介します。

税と私

出水郡長島町立 鷹巢中学校1年

荒田 星美

私は、生まれつき耳が不自由で、補聴器を装着している。この補聴器のおかげで全部とまではいかないが、大体みんなの会話は聞こえる。補聴器を買い換える時に、

「この補聴器は高校生まで使うから、ちゃんと選んでね」

そう母は言った。補聴器を買うときには、国や県、町からの補助金が出る。このお金は、税金から支払われていることを、母が教えてくれた。みんなが税金を納めてくれていてのおかげで、私は補聴器を買ってもらった。それができたのだ。補聴器は温かい気持ちの表れだったのだ。それを知った今、もっと大事に使おうと思った。もし、税金がなかったら、国や県、町からの補助金はなかっただろう。そうすると、高額な補聴器を買うことができず、私は不自由な生活を送っていたかもしれない。

税金は、私の補聴器だけでなく他の

にどのようなものに使われているのか

調べてみることにした。私たちが通っている学校や公共施設、病院代にも税金が使われていることが分かった。

税金がなければ、学校の改修工事や新しい診療所の建設もできず、病院代などの補助金もなく、私たちの生活は不安定になるかもしれない。しかし、税金がこのような使いみちをされるおかげで、今私たちの暮らしは安定し、さまざまなサービスを受けることができている。小学生の時は、「税金って、何のために使われているんだろう」と思っていた。しかし、税金が私たちの生活に密接に関わっていることを知り、今まで買ったときに支払う消費税を、払わなくてもいいのではないかと思っていた気がしたが、支払うことで私も社会に少しでも役に立ちたい、と考えが変わった。買ったときに支払う消費税は私では少額かもしれないが、みんなが支払う消費税が集まれば、もっと多くの

金額になるだろう。そうすれば、社会

のため、人のために使われる、生きた

お金になる。だから、税金の使いみちは、国民が納得できるように、優先順位を決めて使ってほしいと思う。今なら、熊本県を中心に襲った七月豪雨。

その被災した地域の復旧工事や被災地への救援物資の調達、仮設住宅の設置などに使ってくれたらいいと思う。

これから高齢化が進み、医療費などが増加し、もっとたくさん税金がいろいろな分野で必要になってくるだろう。必要などころに税金が使われるように、これからもちゃんと税の使いみちを見守っていききたい。私が補聴器をみんなの税金から補助を受け、購入することができたように、今度はだれかのためになれるように、しっかりと納税をしていきたいと思う。私の大事な耳。その補聴器に補助を受けられたことに感謝し、大切に使っていきたい。税金は安心してみんなが暮らすために重要なものと改めて感じる事ができた。